

## 1 - 3 市川の文学顕彰の現状

### 1 図書館を核とした文学顕彰

戦後の市川における文学顕彰は、1950年（昭和25）に開館した市立図書館が、長い間、中心的な役割を果たしてきた。当時の図書館は、著者を囲む会、読書会などには及ばず、市川ゆかりの著作コーナーや永井荷風文庫の設置、さらには、レコード鑑賞会、美術作品展など、さまざまな事業を行っていた。

### 2 読書活動を核とした文学顕彰

図書館の誕生から10年経った1960年（昭和35）には、市川市読書会連絡協議会が発足し、図書館と両輪となって、著者を囲む会や文学散歩などを積極的に行ってきた。

また、市内の小中学校でも、読書活動が盛んに行われ、学校図書館やPTAを核とした読書会や文芸サークル、読み聞かせサークルなどが、多く結成され、市民レベルでの文芸活動が盛んに行われるようになった。

### 3 文化行政を核とした文学顕彰

行政レベルでは、昭和40年代の「市川市史」編纂事業において、「市川の文学」の概観が試みられたのち、『市民読本 - 市川』（1966・昭和41 市川市教育委員会）、『下総文学のふるさと』（1972・昭和47 市川市立図書館）の発行などを経て、1982年（昭和57）には、万葉の時代から現代までの長期間にわたって、市川に住んだ作家、また市川を描いた作品を集大成した『市川の文学』（市川市教育委員会）が刊行され、行政における文学顕彰の一つの到達点を迎えた。

また、街なか案内板も多く設置され、歴史や文化的スポットの整備も、行政により進められていった。

### 4 市民団体を核とした文学顕彰

1945年（昭和20）藤野天光氏、村上正治氏らにより市川文化会が発足し、市川市の第一回の文化祭として、1948年（昭和23）に開催された市民俳句大会を契機に、市川市俳句協会が1956年（昭和31）に結成された。また、戦後の川柳活動の流れを受けて、川柳新潮社が1963年（昭和38）に結成され、これらは、やがて1974年（昭和49）の市川市芸術文化団体協議会へと結実し、ほかに市川市短歌協会、市川市演劇研究会などが、ここに加わり、市民団体を核とした市民レベルでの文芸顕彰の潮流が作られた。

また、俳句誌「沖」、文芸誌「花粉期」をはじめ、文芸誌の発刊も見られた。

1997年（平成9）からは、市民による市川市民文化賞が設けられ、能村登四郎氏、山本夏彦氏、木村光一氏、葉山修平氏、さだまさし氏、井上ひさし氏らが受賞、行政によらない市民レベルでの文化顕彰の動きも、見られるようになった。